

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577800414		
法人名	医療法人社団千葉クリニック		
事業所名	医療法人社団千葉クリニック グループホーム豊田		
所在地	下関市豊田町中村7-1		
自己評価作成日	平成24年5月25日	評価結果市町受理日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年5月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件が良く施設の近隣にはスーパー、道の駅、温泉等利便性に富んでいる。自治会の協力もあり、色々な行事への参加をさせて頂いている。(町内の清掃、スポーツ)また、消防署の協力を得て、夜間、日中の避難訓練、搬送訓練、消火訓練を実施している。医療併設で緊急時や夜間も対応も充実。介護福祉士を中心に、看護師、栄養士が理念を基本とした総合的な支援を行っている。利用者一人ひとりの思いを大切にし、外出、外食支援等個別への柔軟な対応を実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全職員が理念に沿ったケアを行うことを常に意識され、利用者一人ひとりのその人らしさを大切にするために、「気持ちシート」や「ケース記録」、「メモ帳」に詳細に記録し、本人の思いや意向を汲み取った寄り添うケアを心がけておられます。職員全員での情報の共有を行われ、利用者のしたいことを優先して、利用者一人ひとりの暮らしを支えておられます。三食とも事業所で食事づくりをしておられ、利用者の希望を聞いたり、差入れの野菜を利用するなど、各ユニット毎が独自のメニューの工夫をされ調理されています。買い物や、調理の下ごしらえや配膳、下膳、片付けなどは、利用者のできることを一緒にを行い、誕生日に利用者の希望のメニューを用意したり、おやつ作りを楽しんだり、外食にも出かけるなど、食べることの楽しみを色々工夫しておられます。事業所は利用者と家族との絆を大切にし、運営推進会議や家族会、それぞれの誕生会への招待、個別の外出支援など関係作りに努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時には必ず理念を伝える。また、ホーム便りに記載すると共に、玄関、事務室、共用空間に掲示し職員会議、カンファレンス時、申し送り等で理念に触れ実践に繋げている。	理念を玄関、共用空間、事務室に掲示し、パンフレットやホームだよりにも掲載している。職員会議、カンファレンス時や日々の申し送り時に職員全員で、理念がケアに反映されているか確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会行事の清掃作業やグランドゴルフに利用者と一緒に参加し交流を図っている。また、保育園児、小学生の施設訪問、中学生の職場体験を通じて交流し、買い物、散歩時に地域の方々と挨拶を交わし、野菜、花を頂く等日常的に交流している。	自治会に加入し、職員は地域の清掃作業やグランドゴルフ大会に参加している。小学生の訪問、中学生の職場体験、高校生との農業交流などの他、地域の人とは散歩や買い物の時などに声をかけあう機会も多くあり、季節の野菜や花の差し入れなどもあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の専門知識を活かし、地域の方へ情報提供を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義について説明し、評価表を全職員に配布し記入後数回の検討を重ね管理者が纏めている。職員間の検討の中で現状おける問題点が上がり今後の課題、対策の意見が出るなど、具体的な取り組み、質の向上に繋がっている。	職員は評価の意義を理解し、月1回の職員会議や各ユニット毎で話し合いを重ね、自己評価に取り組んでいる。今回の自己評価では、利用者の高齢化や重度化への対応、終末期のあり方、利用者同士の関係作りなどを検討し、日々のケアの振り返りを行い、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催、2ユニット利用者全員の家族に参加をお願いすると共に、地域包括支援センター職員も参加して頂き、外部評価について報告し、利用者の状況、避難訓練の報告を行い話し合いそこでの意見をサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況報告、行事予定、ヒヤリハットや事故報告、避難訓練、外部評価の取り組み状況等について報告し、話し合っている。地域住民や家族から意見や提案があり、出た意見をサービスの向上に活かしている。	

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者、地域包括支援センターとの相談、情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。地域ケア会議にも参加し、ケアの質の向上や情報交換を行いケアサービスに取り組んでいる。	市の担当課とは、書類の提出時に事業所の現状を伝える他に、電話等で情報交換したり、地域ケア会議の参加時にも、事業所の状況説明や感染症等の相談をして、協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、全職員は身体拘束についての弊害を理解し、拘束を行わないケアに取り組んでいる。日中玄関の施錠は行わず、利用者一人ひとりの状態、状況の把握に努め、外出を察知した際にはさりげなく一緒に出掛けるように取り組んでいる。	身体拘束排除のためのマニュアルがあり、職員は身体拘束について正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者が指導している。新人職員には採用時に研修をしている。外出傾向のある利用者には一緒に外出するなど工夫をして、日中は玄関に施錠していない。地域の人の協力もある。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の身体、精神的な状態を充分に把握した上で異常や変化に注意し、申し送り時や職員会議を通じて情報の共有化をはかり防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護利用の利用者が入居する事で、改めて制度について学び今後さらに研修等に参加し、理解を深め支援に繋がりたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時改定等の際は利用者の家族が充分に納得されるまで説明を行い、理解納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情の受付体制、処理手続きを定め入居時に説明を行い、面会時や家族会等で家族の意見や要望を聞くように努めサービスの質の向上、確保に繋げている。	面会や運営推進会議、家族会、利用者個人の連絡帳、電話等で家族から意見や要望を聞き、出た意見や要望を職員間で話し合い、運営に反映させている。相談、苦情の受付体制、苦情処理の手続きを明確にして、契約時に説明している。	

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者を含め全職員が自由に意見や提案が出来るように、職員会議や懇談会、懇親会を通じ、意見提案を聞き行事、個別支援への取り組みに反映するよう努めている。	月1回の職員会議時やユニットの懇親会、個人相談の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設け、個別支援についての提案や室内環境の改善など、運営に関する職員の意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通し、職員個々の勤務状況の把握に努めているものの、給与水準、環境、条件の整備には至っていない。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として外部研修は段階に応じて機会を提供し、研修内容を共有出来るように復命研修を実施。資格所得に対しては勤務調整等を行い、スキルアップに繋げている。	外部研修は職員の段階に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命報告をしている。内部研修は月1回、職員の希望によるターミナルケアについてなどを実施する他、他の事業所との勉強会や相互訪問交流など働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での学習会、事業所連携就職支援事業等で勉強会を行っている。また、相互事業所訪問を行い、情報交換し、お互いのサービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談受付時の他、入所前の面談にご本人より話を聞き、生活状況、思い(困っている事、不安な事)を理解するように努めている。また、その情報を職員間で共有、把握して上で安心を確保するための関係作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のさまざまな思い、入所に至るまでの経緯をひとつひとつゆっくり聞き、事業所が出来る事、すべき事を踏まえた上でご家族の要望に応えられる努力をしている。		

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のADL等、状況を見極め「その時」に必要としている対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員もGH豊田での家族の一員であるという考えで関わり、一緒に家事をしたり買い物に出掛けたりと共有の生活空間を意識してもち職員が利用者の方々から色々な事を学び互いに支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と情報交換を行いながら家族にしか出来ない事、ご本人が家族に望み必要としている部分を日頃の関わりの中から察知し互いに協力しながら支える関係作りに取り組んでいる。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前一緒に仕事をしていた仲間、趣味を通じての仲間との関係が途切れないよう、自宅で過ごされていた頃と同様に趣味の会への定期的な参加、仲間の面会を促している。	昔の職場の同僚や趣味の仲間、友人の訪問がある。馴染みの美容院の利用や家族の協力を得ての外泊や墓参り、法事、結婚式、外食に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりが孤立しないよう職員が常に見守り、状況に応じて良好な関係作り、関わり合いが出来るよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わり、出来た関係を大切にし必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話の中から浮かび上がる一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、個別のケース記録に記入し全職員で共有している。困難な場合には家族より情報を頂きながら日々の行動から汲み取り本人本位で検討している。	日々の何気ない会話や関わりの中で、一人ひとりの思いや意向についての把握に努め、大事なことはメモ帳に残し、ケース記録に記録して共有に努めている。把握が困難な人には、「気持ちシート」を利用したり、本人の表情やしぐさから読み取るように努め、全職員で検討している。	

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、ケアマネージャー等から情報収集し日々の生活の中で読み取れる暮らし方、思いからこれまでのサービス利用の経緯などの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方や生活のリズム、心身状態などケース記録に記入しカンファレンス、会議等で全職員が把握できるよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンス、モニタリングを開催し家族や必要な関係者、各ユニットの職員が話し合い意見やアイデアを反映した計画作成に努めている。	管理者、計画作成担当者を中心に、毎月1回カンファレンスを開催し、利用者、家族の意見や要望、主治医や事業所の看護師、栄養士の意見を参考にし、介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリングを経て、六ヵ月毎の見直しをしている。要望や変化が生じた場合には、モニタリングに基づいて介護計画を見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に日々の細かい様子を記入し職員間で情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況、ニーズの応じ柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供たちの訪問や消防署指導での避難訓練、自治会行事への参加を通じ、安全で豊かな暮らしが楽しむことができるよう支援してる。		

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者、家族の希望する医療機関、医師に受診できる支援をすると共に通院介助、受診結果についてそれぞれのかかりつけ医との情報の共有をしている。	事業所の協力医療機関の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう支援している。協力医については、週に3日の訪問診察があり、緊急時の支援もある。家族の協力を得てその他の医療機関の受診の支援をし、受診結果の共有をしている。受診情報の確認のため必要に応じて職員が同行しての受診支援をするなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師を配置し日頃の健康管理を行っている。また併設のクリニックの看護師にも、グループホーム担当者が配置されており、常時相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際医療機関に本人の支援文法に関する情報を提供している。また定期的に見舞いに行き、事業所、職員と本人ご家族とのつながりを保ちながら病院関係者との関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針同意書を作成。利用者家族の意向に沿って早期から話し合いの機会を作り、方針の統一を図っている。ターミナルケアの経験もあるが職員の増員に伴い、改めてターミナルケアの研修医学的な勉強会を実施し、利用者の状況に応じた支援方針を随時家族、医師、職員と話し合いより良い支援に取り組んでいる。	「利用者が重度化した場合における対応にかかる指針」があり、事業所が対応し得る最大のケアについて契約時に説明している。状況の変化に応じて本人、家族、かかりつけ医等で話し合いを繰り返し、全員で方針を共有して支援している。ターミナルケアについての勉強会を実施している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故、ヒヤリはつと報告書の記録を整理して検討し、一人ひとりに応じた事故防止に努めている。また消防署職員指導による救急救命法、応急手当等の訓練を実施し実践力を身につけるよう努めている。	ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その場には職員と防止対策について話し合い、職員会議、ユニット会議での振り返り、共有をして一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力によるAEDの使用方法や重度者の搬送方法について学んでいるが、全職員対象の応急手当や初期対応の実践訓練は十分とは言えない。	・全職員対象の応急手当、初期対応の定期的訓練の実施

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、昼夜の規定訓練や独自の夜間の避難訓練を実施している。家族会の緊急連絡体制を確立するなど協力体制を築いている。	年3回、消防署の協力で夜間想定を含めた避難訓練、通報訓練、消火訓練などを実施している。災害時の入居者家族の緊急連絡網の作成や自治会への協力を依頼しているが、具体的な協力体制の構築までには至っていない。	・災害時における地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性、性格を尊重しさりげない言葉かけや対応に配慮している。日々のケア時などに管理者が指導したり具体的に話し合っている。	人格の尊重とプライバシーの確保については、接遇研修を実施し理解している。ユニット会議や申し送り時にも確認、共有し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉かけや対応については管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の勝手な判断で取り決めず日々の関わり合いの中で一緒に行動し会話の中から本人の希望を探し個々の能力に合わせ自己決定出来る場面作りに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職場間だ協力しながら出来る限り本人の思い希冀に応じ・日口過ごして頂けるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来設し、カット、パーマ、ヘアカラーを実施。まぞ、地域の美容院への利用も可能。洋服選びもその日の体調、気候を考慮しながら一緒に選ぶよう支援している。		

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食を調理し好みの物を取り入れたり、頂いた野菜を採り入れるなど、メニューの工夫や一連の作業も一人ひとりの力を活かしながら一緒にやっている。①献立は栄養士である職員を中心に行い、利用者の状態に応じて刻み、とろみ、ミキサー食の対応もしている。②利用者と一緒にメニューを考え、買い物へ行き調理、盛り付けから後片付けまで一連の作業を一人ひとりの能力に応じ行っている。両ユニット共に外食支援も取り入れメニューを見て食べたい物を食べ、いつもと違う楽しさも味わえるよう支援に繋げている。	三食とも事業所で調理し、利用者の希望を聞いたり、差入れの野菜を利用するなど各ユニット毎それぞれのメニューの工夫がある。職員と一緒に買い物に行ったり、調理の下ごしらえや配膳、下膳、片付けなどは、利用者のできることを一緒に行っている。誕生日に利用者の希望のメニューを用意したり、おやつ作り(ホットケーキ、クッキー、おはぎ等)を楽しんだり、毎月1回はグループで外食にも出かけるなど、食べることの楽しみを工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に応じた形態で食事を提供。摂取量は日々のケース記録に記入し細めな水分補給を心がけ、外出時レクの後、入浴、夜間等水分補給を促し、十分な水分が確保出来るよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態や能力に応じて毎食後の口腔ケアの支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、一人ひとりのパターンの把握に努め、時間を見計らって声掛け誘導により出来る限りの失敗、オムツの使用を少なくするように支援している。また、羞恥心や不安を軽減するような対応にも努めている。	排泄チェック表による一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけ誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。羞恥心や不安への配慮をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考に、排便サイクルの把握に努め、食事面では食物繊維や乳製品の摂取を心掛け、毎日の体操腹部マッサージ等で個々に応じた予防に取り組んでいる。		

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日14:00～19:00の入浴時間に一人ひとりの体調、希望に考慮しながら、ゆっくり楽しめるよう支援している。また、重度の利用者に対しては、2人体制の入浴支援やシャワー浴清拭、足浴の支援に努めている。	入浴は毎日でも可能で、入浴時間は14時から19時の間に、一人ひとりゆっくりと入浴できるよう支援している。シャワー浴、清拭、足浴、2人体制の入浴支援もし、ゆず湯、入浴剤を使うなど入浴を楽しめるように工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調に応じて就寝、起床時間を支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服薬管理一覧表を基に目的、副作用の理解に努め服薬セット、チェックと段階において確認を強化し誤薬防止、飲み忘れがないよう支援している。また、薬の変更事には、副作用の確認、経過観察を徹底している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や、力を活かし畑仕事、草取り料理、洗濯干し、洗濯たたみ掃除、切り絵等活躍できる場面作り、楽しみごと、気分転換等の支援を行っている。	テレビを見たり、新聞や雑誌を読んだり自由な時間を楽しむ他、裁縫や生け花、折り紙、計算ドリル、間違い探し、パズルなどを楽しんでいる。日常的な食事の手伝いや、掃除、洗濯物たたみを始め、畑づくりや草取り、水遣りなど、一人ひとりの活躍できる場面をつくり、日々の生活の張り合いとなるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況、希望に沿って散歩、ドライブ、買い物、日光浴や季節感じて頂く為、花見、地域の祭り、初詣、お大師さまに出掛けしている。また、重度者には車椅子での外出等個々の外出支援にも取り組んでいる。	一人ひとりのその日の希望に添って、散歩、買い物、ドライブ(東行庵、江汐公園等)、花見(桜、コスモス等)、初詣、お大師さま参りや毎月の外食など、戸外に出かけられるよう支援している。家族の協力を得て温泉や外食などの支援をしている。	

グループホーム 豊田

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒にスーパーや道の駅に買い物行き、支払いをして頂いたり、本人が必要な物で購入したいと言われた時など、希望に応じて買い物に出掛け支援に繋げている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞いや日常においても利用者から家族へハガキ、手紙を書いて頂きポストまで投函しに出かけたり、毎日家族へ電話される方への支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が伝わるよう、玄関、ホールには季節の花を生けホールでは家事の音、料理の匂いが伝わり五感に働き掛けている。ホームの外、周りは畑や草花、田園とのんびりとした景色にゆったりと居心地良く過ごしていただけるよう工夫してる。	玄関やホール、食卓には花が生けてあり、台所は利用者が出入りしやすいように工夫している。テレビの前のソファでくつろぎながら利用者同士で談笑している様子が伺えた。椅子やソファを多く配置し、利用者一人ひとりの居場所づくりをしている。窓から外の景色を眺めることができる廊下には利用者の作品である切り絵などが飾っており、洗面台、浴室、トイレも使いやすい工夫をするなど居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では廊下等にソファ、椅子の設置を多く取り入れ、その時々思いに合うよう居場所の工夫を行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら、写真、家具、テレビ、座椅子、ぬいぐるみ等使い慣れた物が持ち込まれ、本人がゆったりと居心地良い空間作りに取り組んでいる。	タンス、テレビ、ソファ、テーブル、イス、衣装ラックや化粧品等の小物や位牌など、使い慣れた物や大切な物を持ち込んでいる。壁面は自分の作品や家族写真を飾り、安心して居心地良く過ごすことができるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、玄関の扉はすべて引き戸で必要な部分には手すりを設置し共用部分のトイレ、浴室等には表示を施行している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム豊田

作成日： 平成 24年 10月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	15	・事故防止の取り組みや事故発生時の備え 全職員対象の応急手当や初期対応の実践訓練が十分行われていない。	全職員対象の応急手当、初期対応の定期的訓練の実施	応急手当、初期対応の訓練を月々内容を定め、実践訓練を行う	12ヶ月
2	16	・災害対策 災害時には、自治会への協力を依頼しているが具体化していない。	災害時における地域との協力体制の構築	地域住民(自治会)への協力を元に災害対策マニュアルを見直し、地域住民協力者を交えての緊急連絡網の作成を行う。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。